

---

# 最強な男と最強にあこがれる男

FIAIN

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

最強な男と最強にあこがれる男

### 【Nコード】

N2315W

### 【作者名】

FIAIN

### 【あらすじ】

渚鳳仙高校一年・山井喜太郎は強くなるために学校中の格闘技部に仮入部するものの、体験入学にもついていけず開始20分で追い出されてしまうほどのヒヨワでもやしっ子で弱かった。

この話のオリジナル主人公の闇曲竜鬼は、頭脳明晰・スポーツ万能でイケメンの完璧人間だが今だ学校で信頼できる人が山井しかいなかった。山井と同じ部活に入ろうと思っていた。

仮入部最終日、二人は猛者ぞろいと噂の総合格闘技部「タランテラ」を訪ねる。だが、超激強な美少女部員たちに痴漢と間違われ大

ピンチ！？

そんな男二人と美少女四人が送る最強ラブコメ、登場っ！！

## 第零、五話 物語の起点（前書き）

持っていた漫画で二次元小説を書いてみたいと思って、  
つい勢いで書いて見ました。

細かい表現がかけてないかもしれませんが許してください

## 第零、五話 物語の起点

山井 side

10年前、俺はいじめられっこで毎日ジャイアンとすね夫みたいな奴にいじめられていたのだ。

ところがある日、ある人物がいじめっ子をとっちめて俺を助けてくれたのだ。

それから少しの間だったけど色々キタエてもらったんだよー。

それから少しして

「ししよー、ししよー。」

俺は今、駅で電車に乗って離れていく【ししよー】を走って追いかけている。

【ししよー】にある日、この町から出て行くと言って俺は別れを告げられたのだ。

「ししよー、絶対に帰って来てね。」

と、俺は走りながらも大声で叫んだ。

窓から顔を出している【ししよー】は何も言わず、にっこり微笑んでいるように見えた。

「それまでに・・・俺

絶対・・・強くなるからーーーーっ!」

これがこの話の原点となる物語である。

## 第零、五話 物語の起点（後書き）

戦闘シーンがあるのですが、うまく書けるか心配です。（泣

## 第一話 朝の出来事

〓 山井side 〓

俺は・・・山井喜太郎 15歳です。

あの日から・・・10年の月日が流れ高校生になりました。

そう・・・高校に入ってからというもの・・・くる日もくる日も  
格闘技クラブの活動にあけくれ・・・

そんなこんなで俺の体は

誰もがうらやむ鋼の肉体にキタえ上がっている・・・！

・・・はず・・・だったのですが・・・

実は、まだクラブにすら入ってません。

4月後半なのに・・・なぜ・・・こんなコトに・・・

昨日行った・・・ボクシング部でも・・・

パンチングボールや縄跳びすら出来ず

体験入部にすらついていけず開始20分でクビにされ・・・

柔道部では・・・胴着の重みに耐えれず壁に激突

空手部も・・・板1枚も割ることが出来ず

レスリング部も・拳法部も・テコンドー部も・・・

みーんな追い出されてしまった・・・！

「どーせ俺はヒヨワでもやしっ子で弱いですよー！だ！！

だからって追い出さなくても・・・！」

ああ・・・強くなりたい。

そしてシショーとの約束を・・・

そう思っていると学校の予鈴が鳴り響いた。  
今は、学校に行く途中急がなくてはなりません。

とにかく今日はラストチャンスの日・・・！

気合を入れながら学校に向かうために急ぎ足で橋を渡っている途中  
橋の手すり部分から【カンカン】とリズム良い音がどんどん近づ  
いてきました。

ふと、横を見てみますと

一人の美少女が手すり部分を単語帳を見ながら走っていました。  
橋の下は、川なのです。

「おい、お前！ 何やってるんだ！ 危ないぞっ。」

そう言いながら美少女を助けようと手を伸ばしますが、

【パアンツ】

そして俺は、空を飛んで川に落ちていった。

「ヴアアアアアアア」 【ドボーン】

「な・・・なんだなんだー！ーっ!？」

訳が分からない俺に上から

「あー！っ、ゴメーン大丈夫ーっ？」

という気楽そうな声が聞こえた。

「・・・だっ、大丈夫じゃねーよっ！死ぬところだったじゃ・・・  
ない・か」

と後ろに振り返ると

「あんたが急に手つかむもんだからーっ  
反射的に投げちゃった。」

しゃがんでこちらに謝罪？している先ほどの美少女の姿があった。  
こちらが下にいるためしゃがんでいる美少女のスカートの中が丸  
見えであった。

「？ どうしたの？ 頭でもうつた？」

美少女はまだスカートのことに気がついていないので



「いや・・・その・・・」

俺は、照れくさそうにスカートを指差した。  
やっと美少女は気が付いたのか

「キヤアアアアアアアアア」

バ・・・バカッ！ どこ見てんのよ！！」

と悲鳴をあげながら橋欄干部分を破壊してそれを俺に投げてきたのだ。

それが俺の頭に直撃してそのまま倒れて川の上で大の字で浮かんでいた。

美少女は怒ったまま学校に向かって行った。

もちろん、俺は遅刻だ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2315w/>

---

最強な男と最強にあこがれる男

2011年10月9日15時04分発行